
1. 「一回やってみる」ことの意義

大阪商業大学 学長 谷岡一郎

これまで事実として存在し、かつ、これからも変わることなく事実として間違いのないことは、「起業」こそが近代資本主義の精神の核である、という経済学者たちの考えです。起業は、我々の競争社会を支える基本エクスであり、体力や足腰の強さであり、それなくしては効率の悪い社会となってしまいうでしょう。起業の多寡は、社会の元気印そのものなのです。

とはいえ、何でもかんでも闇雲に起業すればいいというわけではありません。過去に学び、現状を知り、未来を考える。そして生ずるであろう利益・公益と、そのコスト・リスクを比較計算した上でのチャレンジであるべきこと、無論のことでしょう。その意味において、教育内容としてのこの「起業教育」のような冊子は、都合九冊目にあたる本報告書ですが、大変有益で役立つ教科書です。

昨今の高校生はおとなしい、という声をよく聞きます。傾向としてはそうかもしれませんが、まだまだ「何か大きなことをやってみたい」という人材は多いはずで。特に古くからベンチャーの気風を大切にしてきた、関西地域において、その傾向は強いでしょう。ただやってみたい気持ちはあっても、「どうやったらいいのか、わからない」のも事実だと思います。この冊子は、まずそのような人々に手に取ってもらいたいと考えています。

確実に安定したキャリアを目指すことは否定しません。それも社会にとって大変重要ですから。しかし職業が安定したものであろうとなかろうと、起業精神は必ずその内部で必要とされてくる要素ですから、将来どのようなキャリアを目指すにせよ、起業教育は——たとえ架空シミュレーションによる起業であっても「一回やってみる」ことは——本人にとって大きな財産となることでしょう。

長い間（そもそものスタートから）大阪商業大学は、一流の起業戦士を世に送り続けてきました。また実社会をステージとして生きた教育を進めてきました。まだまだやりたいことが多くありますが、少なくとも個人の潜在能力を引き出すことにかけては、日本をリードしているという自負を持っています。「何かやりたい」学生・生徒さんに、特にお勧めできる大学だと信じていますが、大阪商業大学以外にも頑張っている大学が多くあることは認め

ます。自分に合った大学が一番であることは間違いないので、まずは自分の目で確かめて選んでほしいものです。

他に例のない起業教育のテキスト、それがこの「起業教育」です。ここにまた新たな報告ができること、心より嬉しく、そして誇りに思います。寄稿してくださった方々や編集関係者の皆様をはじめ、関係各位に心よりお礼申し上げます。皆様へのお礼はできませんが、10年後、20年後、さらにそののちの日本をより良くすることの約束で、ご勘弁下さい。